



『CSの機能を活かした地域の活性化？地方創生とは？』

校長 濱 中 昌 志

ご存じですか？ 愛宕中校区はコミュニティ・スクールです。

昭和、平成、そして令和と、教育は、その時代時代で、様々な課題に対応し、内容や質を変化させてきています。

ご承知の通り、我が国は、人口減少の影響で、公が提供してきたサービスに限界が感じられ、住民自治や地方分権などの声が上がってようになってきました。

教育現場においても同様で、学校は日本ならではの独自のシステムを作り上げてきた一方で、それぞれの地域や家庭で行うべきと考えられるような内容の教育も学校が担ってきている状況があり、学校はパンク寸前との指摘もあるくらいです。

しかし、これまで学校が担ってきた、担ってきている役割を無くすわけにはいかない状況もあり、今後、その役割を誰が担うのか？という新たな課題も指摘されるようになりました。

そのような中、少し古い話ですが、2004年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、学校を管理する教育委員会の判断によって、公立学校に学校運営に関して協議する機関（学校経営に地域住民等の意見を反映させる）として、「学校運営協議会」を個別におくことが可能になりました。日本では、この学校運営協議会がおかれた公立学校を指して、「コミュニティ・スクール」と呼称しています。愛宕中は、令和2年元日より「愛宕中学校運営協議会」が発足しました。この学校運営協議会の目的は、「保護者及び地域住民の学校運営への参画を進め、家庭、地域及び学校がその教育力を相互に高め、共に子どもたちの豊かな学びと育ちの環境づくりを行う」ことです。

そして協議会委員は、校区の地域住民を代表する方々をはじめ、PTA会長などの皆様が担っており、校長が示す学校運営の基本的な方針について意見を述べ、承認を行います。

昨年度までは、コロナ禍ということもあり、書面会議のみの活動でしたが、今年度は、5月30日(木)に、第1回の協議会を開催します。

学校の問題意識として協議会委員の皆様にお問い合わせの内容としては、

※学力や体力の向上に向けた地域資源を活かした学びの仕組みの構築について

※子どもたちの自己肯定感と自己有用感を育む教育活動について

※生徒自身が支援される側だけでなく公共の担い手としての意識の醸成について（認知症対策など）

※教職員の働き方改革について

このような問題意識から学校運営について説明し、承認を得ることとしています。学校と家庭、そして地域が目標を共有出来るか？学校から発信される目標を、保護者や地域の方々に理解していただけるか？皆様に理解される「コミュニティ・スクール」を目指して参ります。